

市民活動・虎の巻

研究テーマ『はじめての“プレスリリース”』

イベントなどの情報をどうすれば多くの人に伝えられるか、多くの団体が頭を悩ませていると思います。そのような団体はぜひ「プレスリリース」を試してみましょう。プレスリリースとは新聞社やテレビ局などといったマスメディアに対して直接情報を伝えること。名前は知っていても「難しそう…」と敬遠していた方もぜひこの機会にレッツ・プレスリリース！

プレスリリースのメリット&注意点

メリット① 広く情報が周知される

掲載されると団体を知らない多くの人々にも情報が知れ渡ります。不特定多数に伝えるには、一般には多額の広告費がかかりますがプレスリリースだと無料で出来るかも！

メリット② 実績として記録が残る

記事になるとその後も資料として残り続け、新聞を調べたりweb検索したときにその記事がヒットするので、団体の実績資料になるほか信頼向上にも繋がります。

注意点① 掲載されるとは限らない

プレスリリースを出しても、取材されるとは限らないので期待し過ぎは禁物。ただ、取材がなくても諦めずにまた次回も出してみましょう。ニュースが“混みあって”いただけかも知れません。

注意点② 意図していない報道内容となることも

プレスリリースの内容や取材対応が不十分だと、発表側の意図と報道内容がズレることもあります。いざ取材があった時のために問い合わせの体制作りも重要です。

プレスリリースの出し方

ステップ① 原稿を用意する

しっかりと伝えたいメッセージを明確に決めてから原稿作成します。ポイントは過不足なく要点を記載することです。

オススメの構成

- ①魅力的なタイトル
- ②端的なリード文
- ③5W1Hが揃った本文
- ④連絡先

ステップ② 報道各社に送る

リリース原稿を各社へ届けるには長岡市記者会を通すと便利です。原稿(あればチラシも)を21部用意し、アオーレ長岡東棟3階の広報課に持参もしくは郵送してください。それで新聞社やテレビ局、コミュニティメディアに情報が届きます。

we can do it!

私たちは

〇〇ができます！

長岡には様々なノウハウやスキルをもつ市民団体がたくさん！
困りごと、協力してほしいことはありませんか？
私たちが力になりますよ！

「なうネット長岡」は、文化芸術活動の企画運営の協力ができます！

長岡地域の障がい福祉に携わる職員が組織の枠を超えて活動。障がいのある方が表現した作品の展示会(アールブリュット展)や和太鼓公演などを行ってきました。その経験を活かした文化芸術活動の企画運営の協力ができます。



協力してほしいこと

障がいのある方が表現した独自の感性の作品について、情報提供いただきたい。

活用しよう! 協働マッチングリスト

市民活動団体の「協力できること」「協力してほしいこと」をまとめたリストです。リストを開けば、助けになる団体、または力になれる団体がきっと見つかります！



information

センターからのお知らせ

長岡市第1号!

NPO法人UNEが「認定NPO法人」になりました!

平成23年の設立以来、栃尾地域を中心に地域づくりや社会福祉の分野で活動してきたNPO法人UNEがこの度、新潟県から「認定NPO法人」に認定されました。客観的に高い公益性を持っている法人であると判定されたと言えます。協働センターでは、法人格取得や認定NPO取得へのご相談にも対応いたします。お気軽にご相談ください。



認定NPO法人制度ってなに?

同制度は、NPO法人への寄付を促すことにより、NPO法人の活動を支援するために設けられました。認定を得るには特に公益性のある団体であることが求められ、情報公開や組織運営の適正さなどの観点から審査されます。認定NPO法人には寄付する側、される側ともに様々な税制優遇があります。

協働センター/

Q&A

よく寄せられるご相談

Q.取材に繋がる効果的なプレスリリースの方法は?

A.プレスリリースを出すタイミングや、記者にとって魅力的な原稿の書き方などプラスαのテクニクもありますので詳しくはお問い合わせください。図書コーナーにはプレスリリースに関する書籍も揃っているので参照ください。

Q.協働センターでプレスリリースを代行してくれますか?

A.代行はしておりませんが、例文やフォーマットを提供することは可能です。また、記者は協働センターに設置されているチラシもチェックしていますのでそこから取材に繋がる可能性もあります。

配布場所

長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

要チェック!タイムリーな情報と協働センターの日常



「ながおか市民協働センター」

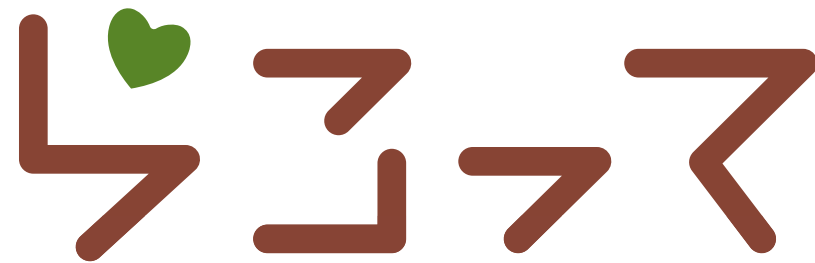


「@nagaoka_kyodo」



「@mytown0258」

知る、つながる、好きになる ながおか市民活動情報誌

Racotte
vol.82

発行●ながおか市民協働センター

2019
10
FREEインタビュー
interview山古志に訪れる人々を
花いっぱい丘で迎える父娘

酒井省吾さん・礼子さん



そのままのあなたで100点満点!
心から人生を楽しむ自然体ママ

内藤純子さん



●活動PickUp!

- 浦瀬町奏楽保存会
- ながおか認知症の人と笑顔でい隊
- 特定非営利活動法人フードバンクにいがた長岡センター
- 株式会社ホーネンアグリ

●市民活動・虎の巻

- 『はじめての“プレスリリース”』

●私たちは〇〇ができます!

- なうネット長岡

毎週月曜日17時頃から放送中!
つながるラジオFMながおか
80.7MHzながおかの
市民活動紹介番組放送時間 10分程度
第5月曜日を除くながおかの市民協働のポータルサイト
コライト、見ないと!https://
nkyod.org

協働センターのホームページ「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。
らこまのバックナンバーも閲覧できます。

コライト 検索

らこま 2019.10.1
<vol.82>

FREE

【発行】ながおか市民協働センター

〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザ アオーレ長岡 西棟3F
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 Mail.kyodo-c@ao-re.jp http://nkyod.org

地域をよくするウワサのあの人にインタビュー！

活動に込める気持ち、これまでのいきさつ、組織での役割……。根掘り葉掘りお聞きました。

活動の根っこ

土に生かされて
酒井省吾 礼子

酒井省吾さん(91歳)
元村長／「薬師の陵」の整備
酒井礼子さん(69歳)
アマチュアカメラマン／「薬師の陵」の整備

1928年生まれの省吾さんと1950年生まれの礼子さん父娘。中越大地震の後、美しい故郷を取り戻すため、丘に草花を植え始めた。



●多くの人々の手助けもあるが、傾斜地の作業は人も機械も危険が伴い、美観を維持するのは難しい。

花々を見て「きれいだね」と声をかけてもらえるのが日々のやりがい！

山古志の景観スポットとして知られる、金倉山中腹の「薬師の陵^{おかし}」。雪深い冬が終わると、色とりどりの草花が一斉に咲き誇り、棚田と養鯉池が点在する里山の風景を彩ります。

この花畑を管理しているのが元山古志村長の酒井省吾さんと長女の礼子さんです。酒井さん父娘は、生まれも育ちも山古志の虫亀集落。薬師の陵の整備を始めたのは、2004年の中越大地震の後から。2年に渡る避難生活を経て、まずは損壊した自宅の修繕、次にその周辺の養鯉池の改修などを行い、その後花畑の方まで少しずつ手を広げていったそうです。

「この丘は山古志の中心部が見渡せ、人々の暮らしの息遣いが感じられる大事な場所。震災で先祖代々の土地が荒れ果てた様子を目の当たりにし、80歳を前にした自分に何ができるかと考え、花を植えるはじめました」と省吾さん。

しばらくすると、この場所が山古志の景勝地として口伝いに広がり、今では多くの方が訪れるまでにになりました。

「観光客やカメラマン、山古志に縁のある方が次々に訪れ、きれいだねと声を掛けてくれるのが日々の励みになっています」と礼子さん。省吾さんも「コソコソとやってきたことが十数年たち、まあまあ形になって、人々が訪れるようになったことはやっていて良かったと思いますよ」と続けます。

2015年、薬師の陵は長岡市都市景観賞を受賞しました。ここ数年は地元の方や地域団体、企業、行政の方も手伝いに来てくれるようになり、この丘は酒井さん父娘のものでありながら、次第にみんなのものにもなりつつあります。「薬師の陵を通じて大勢の方々と出逢うことができた。それが私たちの宝ですね」。

「失敗なんてない」 一歩踏み出す勇気が出る心の持ち方

「子どもは完璧じゃない。だからといって親の私が完璧な訳でもない。子どもより“できること”がほんの少し多いだけ」と話す内藤純子さんは、3人の男の子を育てるお母さんです。

未満児を預けて働く環境が整っていない現状を伝えようと「子ども・子育て会議」に出席して以来、様々な子育てイベントに参加してきた内藤さん。「周りの人たちが子育て中のママを支えることだけではなく、ママたち自身がSOSを出せることも大切だと感じました」。その思いを実現するため、今年の9月にイベント開催に挑戦。自身が参加した『#不登校は不幸じゃない』というイベントの内容を共有する会を、同じ思いをもった方と共同開催しました。「小さくても、同じ境遇の人同士が繋がり、本音を吐き出せる場所があるっていいなと思いました」。内藤さんは自分でイベン

トを開催することに大きな不安を感じなかったそう。「不安はあって当たり前。失敗したら失敗したときに考えればいい。失敗したということは挑んだということ。あとは手直していただく」。この前向きな考え方を教えてくれたのは、自身のお子さんたちだと言います。「子どもたちは、できないこともいっぱいあるけれど懸命に生きている。この世に産まれてきて、初めて歩くようになるまで転んでも何度か何度か挑戦する…。我が子の成長していく姿に私がいいつも勇気をもらっています」。

言葉の端々から周りの人を受け入れる懐の深さが垣間見える内藤さん。「出来ないときも、逃げるときもあってもいい。自然と何かしたくなるときが必ず来るから人と比べる必要もない。無理に頑張らなくてもいいと思うんです」。



内藤 純子さん(40歳)
会社員／心理カウンセラー／&mamaつながり
1979年、三条市生まれ。3人の子どもを育てながら、様々な子育てイベントに参加。仕事をしながら、心理カウンセラーとして活動中。



●最近の内藤さんのマイブームは、お子さんとの農作業。「畑も子育てで、思い通りにならないから面白いです」。

活動PickUp!

浦瀬町奏楽保存会

郷土芸能を次代につなぐ



浦瀬町に明治時代から受け継がれてきた、神楽舞の伝承を通して郷土の歴史を学び、いきいきとした住みよい地域づくりを行っています。毎年春と秋にある浦瀬町の祭礼にて神楽舞を奉納し、参拝者から楽しんでいただいています。担い手不足や神楽舞に係る物品補修のための資金調達など苦労もありますが、周りの支援を頂きながら次代に郷土芸能を継承していく活動を続けたいと思っています。

ながおか認知症の人と笑顔でい隊

認知症の理解をオレンジカラーで広げる



「認知症の人も暮らしやすいまち、長岡」を目的に、一人でも多くの人に認知症を正しく理解してもらえるよう「ながおかオレンジプロジェクト」という活動を始めました。認知症理解のイメージカラーであるオレンジ色で長生橋のライトアップを実現したり、各種団体・企業・店舗等に認知症の人への理解と偏見のない関わりをお願い、認知症本人の講演会などを実施していきます。

生の声は「ラジオ」「コライト」で!

「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

特定非営利活動法人フードバンクにいがた長岡センター

食で繋ぐ豊かな社会



食品ロスの社会課題を解決したいと始まった当団体は、『『もったいない』から『ありがとう』へ』をテーマに、食料品の寄付で人と人を繋ぐ活動を行なっています。イベントなどで、フードドライブ(寄贈品を集める活動)を行い、集まった食料品は、生活困窮者の支援団体や子ども食堂など、必要とされる場に繋いでいます。生活弱者が自立でき、誰もが食を分かち合える豊かな社会を目指しています。

株式会社 ホーネンアグリ

心も殻も循環していく社会を目指して



「豊かな土を創る」を理念とするホーネンアグリは、世界枝豆早食い選手権の際に出る枝豆の殻や枝葉を引き取り、培養土等の原料に再利用しています。ゴミとされるものでも資源として活用することで、持続可能な循環型社会の実現に寄与できたらと思っています。今後も地域資源を活用した土づくりで、枝豆はもちろん長岡の農作物がもっと美味しくなるよう尽力するとともに、社会貢献活動も継続していきたいです。

みんなの声

投稿テーマ

「これも協働!?」暮らしの中で感じた人とのつながり

投稿方法

投稿フォームを使う

QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。

協働センター窓口で投稿する

協働センター窓口を設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。



投稿者
ハイホーさん

投稿者
魚座のCHJさん

先日出掛けたトレッキングの道中、すれ違う年配の女性に「頑張ってるね」と励まされました。山道ではマナーなのかもしれないけど、普段の道ではほとんどありませんよね。久しぶりに人とのつながりを感じた瞬間でした。

今年になって2回、道に迷って「助けてください」と黄色い布地を持たれた方を手助けしました。8月のときは蒸し暑い中40分ほど立って待っていたそうで、熱中症になってしまう恐れもあったので、社会全体にもっと人助けをする余裕があった方がいいのと思いました。